

# 有明海漁業実態調査

## コノシロ漁獲状況調査

### 大庭元気

コノシロ *Konosirus punctatus* は、有明海の重要な水産資源の一つであり、最盛期には約 2,000 トンの漁獲量があったが、2017 年には 546 トンまで減少している<sup>1)</sup>。コノシロを今後も持続的に漁獲利用していくためには、資源管理対策を講じていく必要があるが、これまで有明海におけるコノシロの漁獲動向に関する研究は、田北<sup>2)</sup>や寺田ら<sup>3)</sup>の報告に限られており、漁獲動向について把握するには、更なる情報の蓄積が必要となる。そこで、漁業者に操業船日誌の記入を依頼し、操業状況を調査したので報告する。

#### 方法

調査は、佐賀県有明海漁業協同組合大浦支所に所属する投網漁業者4名および雑魚一重流し刺網（以下、流し刺網とする）漁業者1名を選定し、2021年4月～2022年3月までの出漁日に漁獲量について操業日誌の記入を依頼した。得られた情報を基に漁法別に毎月の平均漁獲量（1人当たりの漁獲量）およびCPUE（1人1日当たりの漁獲量）を推定し、漁獲状況を明らかにした。

#### 結果

投網における月別の平均漁獲量およびCPUEを図1に、流し刺網における漁獲量およびCPUEを図2に示す。

投網漁業は、資源管理を目的に休漁した4月を除き周年行われており、その平均漁獲量は、5月から7月にかけて約5,000 kgまで増加した。その後11月までに500kgまで低下し、3月まで120～160kg程度で推移した。CPUEは、平均漁獲量同様、25～519 kg /人/日で推移した。

流し刺網漁業は、4月から6月に操業され、その漁獲量は、4月で300 kg、5月で363 kg、6月で1 kgとなった。CPUEは、4月に36kg/人/日と最も高く、6月にかけて31 kg /人/日へと減少した。

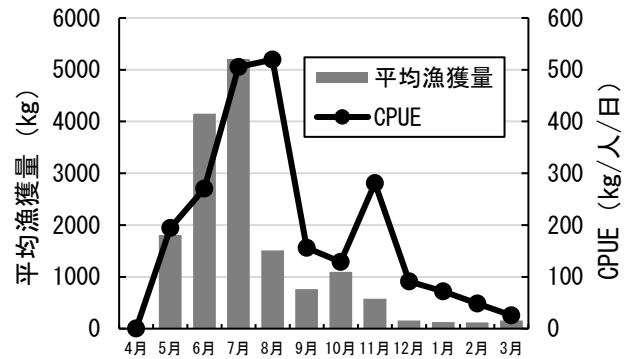


図1 投網によるコノシロの平均漁獲量およびCPUEの推移

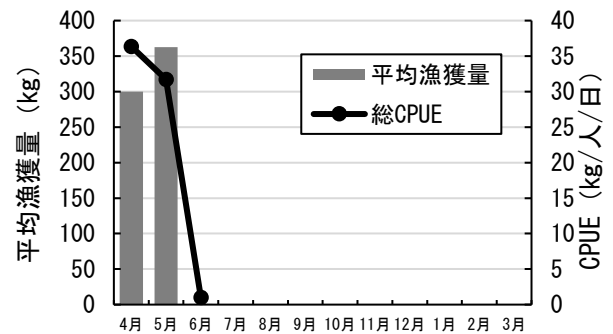


図2 流し刺網によるコノシロの平均漁獲量およびCPUEの推移

#### 文献

- 1) 農林水産省 (1980～2019) : 第26～67次佐賀県農林水産統計年報.
- 2) 田北徹 (1978) : 有明海産コノシロの増殖生態 I, 長崎大学水産学部研究報告. (45), 5-10.
- 3) 寺田雅彦・伊藤史郎 (2017) : 有明海におけるコノシロ投網漁業の実態, 佐有水振セ研報. (28), 93-98.